

自然と歴史

出雲大社は、現存する最古の日本の歴史書である古事記と日本書紀に記録されている、日本最古の神社の一つです。これらの記録書によると、大国主神が住むための建物として、神々によって出雲大社が造られたと言われています。今日では、大国主命は縁結びの神として崇敬され、恋愛をはじめ様々な種類の縁を願うひとびとが、この御神徳に預かろうと神社を訪れます。

現存する大社造りの社殿は、18世紀に再建されました。今日の社殿の高さは24mですが、考古学の調査では、かつてその2倍の高さがあったとされています。神社周辺は豊かな自然に恵まれており、2000本以上の木々、90種の鳥や多様な植物の生息地となっております。毎年旧暦の10月にあたる期間、出雲大社は年に一度の神在月を迎え、日本全国の神々がそれぞれの神社を離れ、出雲大社に集まります。

アクティビティ

神社を案内する90分間の定期ツアーに参加したり、神社周辺の森で鳥や植物も観察できます。

門前町の通りにはお土産屋や飲食店がならんでおり、出雲そばやぜんざい（甘い豆のスープ）など地元の特産品を味わうことができます。